

金城学院中学校・高等学校の輝ける未来と展望

「科学的思考」「表現」「協働」の三つの力で主体的に生きる女性を育成

長年金城学院で教鞭を執られ、副校長として学院全体を支えてこられた長屋頼子先生がこのたび中学校・高等学校の校長に就任されました。

目まぐるしく変化する現代に対応するために必要な「科学的思考」「表現」「協働」を育む金城学院の教育観、その礎となっているのは「聖書に基づいたキリスト教教育」と「Dignity(総合的な学習の時間)」です。そのうちの「Dignity(総合的な学習の時間)」に対するお考え、また常に生徒と寄り添うことを大切にしていらっしゃるその思いについてお話を伺いました。

三つの力を身につけて、主体的に生きる力を育成

このたび金城学院中学校・高等学校の校長に就任するにあたり、あらためて中学校・高等学校の教育観についてお話ししたいと思います。

本校は創立者がおっしゃっている「福音

主義キリスト教に基づいた教育を礎に、神と人へ奉仕ができるリーダーとなる女性を育てたい」という思いのもとで教育を行っております。特に生徒たちには6年間の学びの中で「科学的思考」「表現」「協働」の三つの力を身につけてもらうべく、カリキュラムを組んでおります。「科学的思考」とは疑問を持ち、課題を立てて

情報を集め、それを分析し、よりよい解決策を生み出す思考力のことをいいます。これらの思考や疑問を自分の言葉で伝えることが「表現」です。また自分の考えを明確に伝え、相手の考えを聞く、その中から新たな発見をしていくことを「協働」と呼んでいます。こうした三つの力を身につけるために、新カリキュラムに向けて、授業

金城学院中学校・高等学校 長屋 頼子 校長

金城学院中学校、高等学校、大学文学部社会科学学科を卒業。1988年度に中学校教諭。1996年度に高等学校教諭となる。2012～13年度金城学院高等学校教頭、2012～17年度学校法人金城学院評議員を務める。2014年度より金城学院高等学校副校長を務める。2018年に金城学院中学校・高等学校校長となり現在に至る。



長屋校長先生はどんな人!?

今年、授業で教えてもらっている高校の生徒たちに、長屋校長の印象を窺いました。するとどの生徒からも聞かれたのが「優しく包んでくれるお母さんのような先生」「そばにいと安心できる」という言葉。常に自分の娘のように生徒たちのことを思う長屋校長の心がしっかりと伝わっていることがわかります。また「ごきげんようというご挨拶が素敵」「憧れの先生」という言葉も聞かれ、生徒たちの憧れの存在であることも窺えました。

改善をしています。

大学入試センター試験もこれまでは詰め込んだ知識を問う内容がほとんどでしたが、昨今では表現力や思考力を試される内容へと変化しています。文理を問わず複数のグラフや文章を読み解いて答えを導き出す力が要求されています。先日、高校3年生の保護者の方が「まさに金城学院の学びが活かされると思います」といってくださり、大変嬉しく思いました。複数の視点から考え問題解決に導く力、根拠を添えて自分の考えを述べる言語力、こうした総合的な力を6年間で身につけられるように指導していく所存です。私は校長となった今も、高校の芸術科書道で教鞭を執っております。授業で生徒は日本や中国の古典

書を比較して違いを発見し、それを自分の言葉で友達に説明するという協働の学びをしています。日々の授業の中で気づき、分析し、仲間と協働しながら言葉で表現する能力を常に高めていってほしいと願っています。

生徒たちとの コミュニケーションを大切に

こうした教育のすべては金城学院のDignityが礎となっています。Dignityとは、自己発見に始まり広い視野で物事が見られる女性の育成をめざして行う総合的な学習時間のことです。私たちはDignityを通して品位と尊厳を保ちながら社会に参画し、主体的に生きる女性を育てています。また私たちは、教育目

標図にある力を育成すべく各カリキュラムを構築しています。

生徒が宝物であることはもちろんのこと、金城学院にとっては生徒のことを一生懸命考え、指導を行っている教員や、その教員を支えてくださる職員の方々もすべて宝物です。そのためまない努力に心から感謝をしつつ、今後も主体的に生きる女性を育てるという教育目標のもと、全教職員が一丸となって教育に取り組んでいきたいと考えています。

私自身も教師になってから今日まで、生徒たちのことを自分の娘のように思っただけではありません。校長になってもこれまで同様積極的に生徒たちと接していきたいと思っています。休み時間はもちろんのこと、登校や下校時間も出来る限り生徒たちとコミュニケーションを取って、生徒たちのことをもっと理解していきたいと思っています。

目まぐるしく変わる現代、AI化もますます進み、これまで人がやっていた仕事が無くなってしまふこともあるでしょう。しかし人にしかできないことは必ずあります。そこにぜひ挑戦をしていってもらいたい。リーダーとして、あるいは縁の下の力持ちとして寄り添い、支え合える人になってほしい。そのために校長として、また学校としてこれからも保護者の方々を手を取り合い、責任を持って生徒たちの健やかな成長のサポートをしていきたいと思っています。



地域や社会とつながり 開かれた金城学院へ



金城学院高等学校
内田 孝 副校長

1979年、金城学院中学校の非常勤講師となり、その後中学校専任教諭となる。1991年より金城学院高等学校へ、1995年より6年間進路指導課長を務める。2002年に金城学院中学校教務課長、2012年に教頭に就任。2014年に中学校副校長となり、今年4月より高等学校副校長に就任。

日々の積み重ねが 各自の力につながる

教会でのご縁をいただき、金城学院中学校で11年教えたあとに高校の進路課長や中学の副校長を務め、このたび高校の副校長に就任することになりました。生徒たちを長年教えてきて思うことは、みなさん優しくいい子ばかりだということです。学外からも「バスの席を譲っていただいた」などとお礼の声もいただき、生徒たちの中にキリスト教教育やDignityが根づいていると感じます。生徒たちには金城学院で身につけた優しさや奉仕の精神を、将来の進路選択や社会で役立ててほしいと思います。

40年の教員生活ではあらためて積み重ねの重要性に気づくことができました。たとえば中学では年に一回、読書感想文を書きます。金城学院中学校はこれまでに読書感想文コンクールで総理大臣賞を二度いただいておりますが、これも“書く”ということの積み重ねが実った結果だと思えます。生徒たちには課題図書だけでなく、自分の好きな分野や興味を持った分野の本をたくさん読んでほしい。読書だけでなく興味のある学びや研究はどんどん深めてほしいと思います。それが各自の力になり、主体的

に生きる力へとつながります。力がつけば何事も自信を持って取り組めるようになるのです。私自身も学生の頃、大好きな化学を一生懸命研究しました。時には先生に無理をいって研究を進めたこともありましたが、結果として今の自分の力になっていると実感しています。

家庭と連携を取りつつ 主体性を育む

また毎朝の礼拝の中でぜひ、自分が好きな聖書の御言葉を見つけてほしいとも思っています。その御言葉はきっと、将来心の支えになり、生きる励みになると思います。

生徒たちにとっては学校や家庭がすでに社会のはじまりです。その中で自分がどのように過ごしていくかを自分自身で考え、行動することが主体性につながります。また自分で考えたことにはきちんと理由付けができる科学的思考や、みんなと議論、協働しながら何事も取り組んでいける力を身につけてほしいと考えています。金城学院としては今後も、家庭と連携を取りながら一人ひとりの生徒たちのこうした力を養っていく環境を整えていきたいと思っています。

さらに副校長としては今後、もっと

地域や社会ともつながりながら金城学院を社会に開かれた学院にしていきたいと考えています。地域の方々との連携はもちろん、生徒たちももっと外に出ていろいろな世界を知ってもらいたいです。新しい世界の中で、新たな自分を発見し、自分に自信と力をつけて自立できる女性になってほしい。そのために、教職員一丸となって今後も努力をしていきたいと思っています。



金城学院中学校
野々垣 慎治 副校長

1987年に東京理科大学理工学研究科物理学専攻修士課程修了後、金城学院高等学校へ理科の非常勤講師として就任。1988年に高等学校専任教諭となる。1999年に金城学院中学校へ、2009年より企画広報室長。2013年に中学校教務課長、2018年に中学校副校長、学校法人金城学院評議員に就任。

聖書の教えを礎に 明るく輝く女性を育む

生徒たちの活躍の場を より多く作り出す

このたび副校長に就任することになり、今まで以上に大切にしていきたいことは、朝の礼拝で、生徒たちにわかりやすく言葉を選び、多感な時期の中学生にお話することで、本校の建学の精神であるキリスト教を伝えていきたいと考えています。

また生徒たちが活躍できる場をより多く提供していきたいとも考えています。金城学院には、部活動や行事、奉仕活動など授業以外にも生徒が参画する場があります。授業ではあまり目立たない子でも、部活や行事ですばらしい能力を発揮する子はたくさんいます。こうした生徒たちがひとりでも多く輝けるような場を作っていきたいと思っています。

授業でも文部科学省が推奨するように探求活動や発表などのワークショップを多く取り入れ、生徒たちの表現力や思考力を伸ばしていこうと考えています。こうした授業もまた、生徒たちの新たな一面を見出し活躍の場となることでしょう。

1人ひとりの 夢の実現を支援

さらに中学では来年度から新カリキュラムに移行するにあたり、

現在さまざまな準備を進めています。次年度以降の新カリキュラムに向けての改革を教職員全員で全力をつくし、金城学院の教育方針である「社会に参画し、主体的に生きる女性」となるように生徒たちを導くことを目指しています。

生徒たちは金城学院中学校に、さまざまな夢を抱いて入学してきます。たとえば将来はグローバル社会で活躍したい、国家試験を受けて資格をとりたい、あるいはご両親のそばで職につき、自分の家庭を築きたいという子もいるでしょう。こうした一人ひとりの夢が叶うように力をつけさせること。それが私たちの使命だと考えています。そのため金城学院の教職員が一丸となって考え、努力していかなければならないと思っています。

金城学院の卒業生は明るく他者への思いやりや優しさにあふれた人たちがばかりです。それはひとえに聖書の教えによるものだと思います。成長期に毎日の礼拝で聞いたすばらしい聖書の御言葉は必ず心のどこかに残ることでしょう。その御言葉を支えにどんときも前向きに明るく生きていける、そんな女性を育ていける学校作りをこれからも心がけていきます。

